

# 言葉を育む紙芝居「こんなときどうする」の読み聞かせ

## ポスター発表実践例

山梨大学教育人間科学部附属特別支援学校  
 中学部 ○○ ○○

タイトルの明記は上部30cm以内に  
 (テーマは自由です)

所属と氏名を必ず記載してください

サイズは、模造紙2枚程度です。  
 縦置きのパテーションボード(横120cm×縦180cm)に、  
 公開研究会前日16:00、もしくは当日に貼ります。

	月	火	水	木	金
8:45	朝の生活				
9:25	朝の生活				
9:30	朝の体育				
9:50	朝の体育				
10:00	課題学習				
10:40	課題学習				
10:50	作業学習	生活単元学習	保健体育	生活単元学習	美術
11:50	給食				
12:00	給食				
12:50	給食				
12:50	給食				
13:15	昼休み				
13:25	生活単元学習	音楽	帰りの生活	職業・家庭	生活単元学習
14:25	帰りの生活				
14:25	帰りの生活				
15:00	帰りの生活				

**1. 対象授業** 本校中学部の課題学習は、各教科等を合わせた指導である。「国語・数学などを主とした生活に役立つ基礎的な力を高める。」「障害に基づく種々の困難克服し、自立し社会参加する資質を養う。」をねらいとして、読む・聞く・話す・書く・数量・図形・金銭・時計・理科や、算数・図形・生活単元学習、自立活動の内容を学習内容として取り扱っている。中学部の日課を、図-1に示す実践は、毎週火曜日に行っている、6名で取り組むグループでの学習についての報告である。

「内容について」

- ・学校で行っている日々の実践事例や研究
- ・教材の紹介(説明)
- ・授業の報告
- ・分掌での取り組み
- ・個人や団体での研究等が例年出されています。

**2. 授業の目的** 言葉には内言語と表出言語がある。表出言語については、自分の思いを重ねた発音の段階、正確な発音ではないが言葉を意識して話す段階、言葉をコミュニケーションの道具として使いこなす段階など、いくつもの段階がある。本実践では、生徒個々の言葉に関する実態から個に応じた目標を設定し、生徒それぞれの言葉に関する力の向上を目指している。

**3. 学習集団** 6人を授業を行っている。集団は、友だちの行動が見通しが持ちやすくなるだけでなく、よりよい方法を意識しやすい効果が期待される。また、仲間と活動を共有することで声を出そうとしたり、正しく発音しようとしたりする意識の高まりも期待される。こうした利点を活用したいと考え、集団学習の形態を選択した。

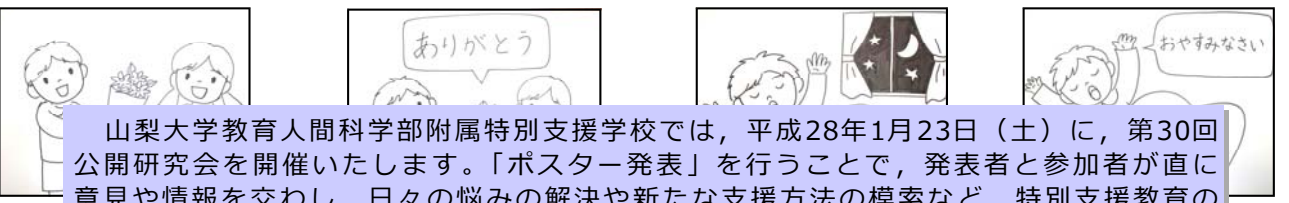
「レイアウトについて」

- ・写真や絵・図等の使用の有無は、自由です。



**4. 授業の実際** 言葉を用いたやりとりの初歩部分に焦点を当てた授業なので、日常生活の中で頻りに触れる機会のある挨拶を題材として取り上げた。授業場面では、「いただきます」の「す」の部分に合わせて声を出すことを課題とする生徒、「い・た・だ・き・ま・す」というように、一文字ずつ正しい発音を意識することを課題とする生徒というように、個に応じた課題を設定した。教師の役割分担を明確にすることでスムーズな授業進行を行いたいと考え、CTは円滑な進行を心がけ、個に応じた支援についてはSTが個別に対応することとした。

**5. 教材開発** 教材は、授業に参加する教師全員で作成した。授業の構想について話し合いながら作ることで、授業に対するイメージの共通化を図った。それぞれの得意分野を有効に活用し、互いの経験や知識を持ち寄ることで、教材の質が高まった。



**6. 発表の準備** 山梨大学教育人間科学部附属特別支援学校では、平成28年1月23日(土)に、第30回公開研究会を開催いたします。「ポスター発表」を行うことで、発表者と参加者が互に意見や情報を交わし、日々の悩みの解決や新たな支援方法の模索など、特別支援教育の発展に繋がりたいと考えます。是非、日頃の実践や研究の成果について発表していただき、

生活について「やさしい」を重視し、言葉の意味を理解して使える言葉の充実に繋がりたい。

ご協力いただける方は、一次案内に記載されているFAXまたは研究主任宛のメールアドレスに、お申し込みください。(形式等に指定はございません)  
 詳細につきましては、お申し込みの受付後、順次お知らせさせていただきます。

山梨大学教育人間科学部附属特別支援学校 研究主任 中込昭彦

